

母児関係論

1 単位 (選択) 3 年

Introduction to Maternal and Child relationship

岸田 佐智・教授 / 保健学科 看護学専攻 母性・小児看護学講座

【授業目的】母と子、および親と子の関係について、どのような考え方があるのかを現存する理論を基にして理解し、演習を通じてその現象の意味を深める。また、母児の関係を発達させるための母乳育児の重要性について学ぶ。

【授業概要】母と子、および親と子の関係に関する Reva Rubin, Klaus and Kennell, Bowlby, Winnicott らの理論的考え方について講義により、紹介し、その考え方理解する。その理解に基づき、母と子(あるいは親と子)が一緒に行動している場を学生各自が観察する。観察できた現象を理論に照らし合わせながら、グループで同意点と相違点を討議し、グループ毎に母と子(および親と子)の関係について理解を深める。また、母乳育児に関して焦点を当て、母乳育児中における、母と子の関係とその成立ができるための要因について探る。

【先行科目】『母性看護学概論』(1.0)

【到達目標】

1. 母児関係の始まりについて理解する。
2. 母と子のきずなの形成について理解する。
3. Reva Rubin の母性論より、母性の主観的体験について理解する。
4. 愛着とは何か、Bowlby の愛着行動から理解する。
5. 母と子および親と子の関係の中での、親および子の発達について考える。
6. 母乳育児を成功させるための要因について理解する。
7. 母乳育児を行っている親と子の関係について理解をする。

【授業計画】

1. 授業オリエンテーション、母と子の関係とは何か、母と子および親と子の始まりについて
2. 妊娠期からの母と子の関係、母子相互作用について
3. Reva Rubin による妊娠出産における母性の主観的体験について
4. Bowlby の愛着行動について
5. 母と子の接近行動の実験、子の個体化の過程について
6. Winnicott による児の情緒的発達について
7. 母と子の関係を形成する上での母乳育児の位置づけと、その成立要件について
8. 母と子(あるいは親と子)と一緒にいる場面に出向き母と子(親と子の)観察を行う
9. 母と子(あるいは親と子)と一緒にいる場面に出向き母と子(親と子の)観察を行う
10. グループ作業、観察できた内容を持ち寄り、理論に照らし合わせる。
11. グループ作業、観察できた内容を持ち寄り、理論に照らし合わせる。

12. 授業発表 / グループワークで行った母と子および親と子の関係について発表する

13. 授業発表 / グループワークで行った母と子および親と子の関係について発表する

14. 授業発表 / グループワークで行った母と子および親と子の関係について発表する

15. 授業発表 / グループワークで行った母と子および親と子の関係について発表する

16. 母と子(および親と子)の関係に関する総括

【成績評価】グループワークの発表に関する態度、貢献度、内容についての相対的評価、およびレポート

【教科書】特に指定なし

【参考書】授業の中で、適宜紹介する

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217916>

【連絡先】

⇒ 岸田 (088-633-9032, skishida@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月 17:00-19:00)